

# 航空機工場と航空基地建設の実態

## アジア・太平洋戦争下 水島軍事機密史料集復刻

小 川 薫 さん

### はじめに

私は、昭和5年(1930)12月26日、旧岡山県川上郡宇治村<sup>ささ</sup>笹尾2480番地(現高梁市宇治町)(当時は12世帯、現在6世帯)の農業兼大工・小川熊次郎の次男に生まれた。

### 戦争への道

<sup>(1)</sup>時局は戦争へと向かっていた。思いつくままに記してみる。

昭和12年1月7日、日本は中国に全面的な戦争を仕掛けていった。いわゆる支那事变の開戦である。

昭和12年9月、陸・海軍は国民に対して、「<sup>(2)</sup>拳国一致」のビラを発行し、日本は負けを知らない神風の国、天皇陛下のために命を捧げよと、国民の気持ちを<sup>(3)</sup>昂揚し、<sup>(4)</sup>士気の高揚を計った。

対米英宣戦の<sup>(5)</sup>大詔発行は、昭和16年12月8日、午前11時45分のことである。いよいよこの刻に大東亜戦争に突入したのであった。

それまでの尋常小学校・高等科は昭和16年4月から「国民学校初等科・高等科」と改められた。ナチス・ドイツのフォルクスシューレにならって名付けられ、「<sup>(6)</sup>皇国ノ道ニ則リテ初等科普通教育ヲ施シ国民ノ<sup>(7)</sup>基礎的錬成ヲ為ス」ことを目的として発足したものである。

### 学徒動員へ

食糧増産計画の下、建国した<sup>(8)</sup>満州には広大な土地があったが、成人は軍人として必要なため、開拓のために人数が不足していて、国民学校高等科生にも募集の範囲が広げられ、田舎の農家の次男ということで、<sup>(9)</sup>満蒙青少年開拓義勇団に行くようにと説教された

が、私は応じず、満州には渡らなかった。

しばらくして、戦局は悪化の道をたどり、大本営のラジオ放送も敗色の色を漂わせるようになり、<sup>(10)</sup>富国強兵・<sup>(11)</sup>鬼畜米英・大東亜共栄圏とラジオ・新聞で報道され、<sup>(12)</sup>国賊・<sup>(13)</sup>非国民と呼ばれ、憲兵に連行されるよりはマシ、と三菱重工業航空機製作所へ学徒動員として<sup>おもむ</sup>赴いた。

配属されたのは、航空機製作所第二組立工場であった。第一組立は胴体の骨格を組み立て、我が第二組み立ては胴体の骨格へ外板の<sup>(14)</sup>ジュラルミン板の<sup>(15)</sup>鋸打ち、翼や脚の取り付けで、担当部は操縦士の席の上の天蓋の取り付けであった。第三組み立ては配線や機器の取り付けで、飛行機完成の形に仕上がっていた。水島では、昭和18年4月から大空襲までに一式陸上攻撃機513機を造った。

昭和20年6月22日午前8時36分、米軍B29爆撃機110機による大空襲で焼け野原となった。

その後は、連島の山の北、竜の口に半ドーム型の建屋で戦闘機紫電改9機を造った。

8月15日、前夜から正午に重大放送があると聞いていてラジオに耳を傾けたが「忍びがたきを忍び、耐えがたきを耐え・・・」のところが雑音混じりで聞き取れただけで何がなんだか、周りの人の話して「戦争は終わったらしい。」と知った。

「ついにこの日が来たのか・・・」これで田舎に帰れば麦でも芋でも腹いっぱい食べられるというのが実感であった。(その時15歳)

支那事変は、当初、軍は1年ほどで勝利すると豪語したものの、重慶の奥地まで進撃したころには兵隊の人数・戦車・弾丸・食糧・医薬品・看護師など後方支援が不足していた。

内地は食糧増産で、農地に工場は立てられず、昭和16年6月、海軍は水島の埋立てを決定した(軍・三菱重工業・岡山県の三者)。

旧高梁川の<sup>はし</sup>廃川地を<sup>(16)</sup>福利厚生施設、<sup>(17)</sup>養成工場、<sup>(18)</sup>宿舎、社宅、浴場などに利用、有史以来の高梁川河口沖に<sup>はし</sup>堆積した砂を持って<sup>(19)</sup>陸地の造成、広大な工場計画が行われた。緊迫し

<sup>(20)</sup>た世相で、内容は秘密で誰も知らされずに。

平成24年、京都の古書目録に「水島戦時中極秘文書」を見て、即刻得意先の書店にFAXで購入を申し入れた。倉敷・高松・山口・亀島山トンネル研究会などから問い合わせがあったが、<sup>(21)</sup>「一見の」京都の風習から私が購入できた。元山陽学園大学教授太田健一先生は終戦時に焼却処分されたはず、よくぞ残り倉敷へ帰って来たものだと、監修をご担当くださった。

軍極秘は、昭和13年2月から14件

丸秘文書は、昭和16年6月27日付1件

極秘文書は、昭和16年8月7日から14件

終戦までに 親展を含み40件を収録している。

昭和という時代が遠くなりつつあり、戦後70年という節目の年になった。

倉敷市において、昭和16年6月に海軍による海面の埋立て、軍極秘文書には、誰が命令し、どのように建設されたか、実名と押印がある。のべ350万人という兵士は赤紙<sup>(22)</sup>1枚で召集され命を落とした。誠に無念、<sup>あわ</sup>憐れのほかない。

水島を、航空機製造を、戦争を<sup>(23)</sup>風化させないために子々孫々まで「真実」を伝えたい。これが、私に課せられた<sup>(24)</sup>天命だと考えている。

- 
- 1 時局...時世のありさま。そのときの世の中の状態。
  - 2 拳国一致...国全体が一つの目的にむかって同一の態度をとること。
  - 3 昂揚・高揚...精神や気分が高まること。また、高めること。
  - 4 士気...集団や兵士の意気込み。
  - 5 大詔...天皇が広く国民に告げる言葉。詔勅。
  - 6 皇国...天皇が統治する国。
  - 7 錬成...鍛えて立派にすること。
  - 8 満州...日本が満州事変によって占領した中国東北部に作りあげた国家。1932年、もと清朝の宣統帝溥儀を執政に迎え、中華民国から分離させて建国。1945年8月、日本の敗戦とともに消滅。
  - 9 満蒙青年開拓義勇団...満州事変以降、日本から中国東北部へ送り出された農業移民団。満州国維持の軍事目的と国内農村窮乏の緩和を目的として、総勢三十万人以上に達したが、ソ連参戦により潰滅。多大の犠牲者を出し、また中国残留孤児を生んだ。

- 10 富国強兵...国を豊かにし兵力を増強すること。国の経済力・軍事力を高めること。
- 11 大東亜共栄圏...欧米諸国の植民地支配から東アジア・東南アジアを解放し、東アジア・東南アジアに日本を盟主とする共存共栄の新たな国家秩序建設を目指した、第二次世界大戦における日本の構想。
- 12 国賊...国の利益を害する者。国家に害を与える者。
- 13 非国民...国民としての本分・義務に反する行為をする者。特に、第二次世界大戦時に、軍や国策に非協力的な者を非難する語として用いられた。
- 14 ジュラルミン...アルミニウムに銅・マグネシウム・マンガン・ケイ素などを混ぜた合金。軽量で強度が大きいため、飛行機・建築などの材料にする。
- 15 鋳打ち...穴を開けた部材を接合するために、鋳（リベット）を打ち込んでしめるけること。
- 16 廃川地...蛇行した河川の直線化や、洪水防止のために幅の広い放水路の開削を行った場合に廃止される従来の河川の敷地。
- 17 福利厚生...企業が労働力の確保・定着、勤労意欲・能率の向上などの効果を期待して、従業員とその家族に対して提供する各種の施策・制度。主として従業員の生活向上を支援する目的で実施される。
- 18 有史以来...人間が歴史を記録し始めてから今まで。
- 19 堆積...積み重なること。
- 20 世相...世の中のありさま。社会のようす。
- 21 一見...初めて会うこと。京都では、お店に何らの面識なく、初めて訪れた人は入店を断られることがある。
- 22 赤紙...召集令状（在郷軍人などに対し、実際の軍務につくことを命じる書状）のこと。
- 23 風化...ある出来事の生々しい記憶や印象が、年月を経るに従い、次第に薄れていくこと。
- 24 天命...天から与えられた使命。